知られざるおくに自慢27

北海道占冠村

な～んも無いけど、自然はいっぱい！

日本一の寒さ！を体感できる村

「占冠村」。

「しむかっぷむら」と読みます。北海道の市町村の多くがそうであるように、アイヌ語に由来する地名で、「シモカプ」（静かで平和な川の上流）を語源としています。

占冠村は、北海道の真ん中にある富良野市から約五〇キロほど南下したところにある小さな村です。と言っても面積は五七一平方キロメートルあり、東京二三区とほぼ同じ面積に約一二〇〇人の住民が暮らしています。

占冠村の有名なもの、それは寒さです。毎年ギンギンに「しばれる」のですが、今年は二月四日にマイナス三四・四度になり、四日連続で寒さ日本一を記録しました。

マイナス三〇度を超えると、「寒い」というより「痛い」と感じます。濡れたタオルを振り回すとあっという間に凍って、棒のようになります。また、熱湯を空中にまくと気体となって一瞬で消えてしまいます。

幻想的な氷の世界でおもてなし

真冬の占冠村では、この寒さを利用した、冬を楽しむイベントが行なわれます。

バケツの中で水を凍らせ、アイスキャンドルを作成し、その明かりのもとで山菜や鹿肉料理などの地元料理を堪能する「キャンドルナイト」。今年はドラム缶の露天風呂も登場しました。

また、アルファリゾートトマムには、氷のレストラン、氷のホテルなどが建ち並ぶ「アイスビレッジ」が登場します。氷のホテルは実際に宿泊もできるので、ぜひ挑戦してみてはいかがでしょうか。

鹿もキツネも熊も、存在感をアピール

村のキャッチコピー「自然体感　しむかっぷ」が表すとおり、占冠村は自然が大変豊かなところです。標高が高く空気が澄んでいるため、晴れの日の鮮やかなオレンジ色の夕焼け、こぼれ落ちんばかりの満点の星空は、思わず感嘆の声が漏れてしまうほどの美しさです。

また、新芽が一斉に芽吹く新緑の季節、気温が下がり木々が赤や黄色に色づく紅葉の季節など、山間部ならではの季節ごとの自然の美しさが鑑賞できます。

こんな美しい情景が、職場の窓からや仕事の帰り道といった日常の暮らしのなかで見られるというのは、なんとも贅沢なことです。

また、野生動物もたくさん生息しており、住宅のすぐそばまで鹿やキツネがやってきます。ほろ酔いでの帰り道に、暗闇にボーッと浮かび上がる白い物体にギョッとしたら、鹿のお尻だったということもしばしば。もちろん熊も生息しています。姿を目にすることはなかなかありませんが、足跡や糞を残して存在感をアピールしています。

コンビニや本屋は無いですが、自然がたっぷりの占冠村を、ぜひ「体感」しに来てください！

上島早苗
北海道本部女性部長